

令和7年11月19日付【環境新聞】

会長 中西 新二＜安全・安心な上下水道事業持続のための担い手に＞



全国上下水道コンサルタント協会会長

中西 新二

琵琶湖・淀川流域の水通へ、
かび臭く下りハロメタなど
の発がん性の微量有機物質対
象が1880年頃から始まり
ました。高度浄水施設（オゾン
処理、粒状活性炭処理）の
導入による対応ですが、その
業務に10年ほど関わりまし
た。当時、国内では、導入実
績が少ないため、導入検討の
参考とするため先進的な欧州
地域の事例調査にも行きまし
た。今、膜ろ過と水コンサ
ルタント技術者としてターニ
ングポイントになったように
思います。環境との関わりで
思い出し強く残っている貴重
な経験でした。

安全・安心な上下水道事業 持続のための担い手に

いま、
PFASは、永遠の化学物
質と呼ばれ、除去が難しい物
質です。水道だけでなく下水
汚泥からも検出され、下水汚
泥資源の有効活用においても
課題となっています。PFAS
除去については、現有技術
での対応が進められています
が、完全な除去が可能で、イ
ニシャルコストが低いフロン
システムを開発が必要になっ
ています。

また、社会問題としては、
水インフラ施設の老朽化が喫
緊の課題となっています。上
水道分野では、水管橋の崩
落、下水道管に起因する道路
陥没、水道管からの漏水など
大規模な事故が発生し、下水
道の使用制限、断水、交通規
制など市民生活への影響が生
じています。

地球温暖化が要因とされる
気候変動の緩和のため、上下
水道事業では、省エネルギー
化、再生可能エネルギーの導
入、廃棄物のリサイクルなど
の取り組みによるカーボンニ
ュートラルが必要で、施設
老朽化に伴う事故発生頻度の
増加が想定され、市民生活へ
の影響リスクは今後高まりま
す。このため、老朽化施設の
計画的な更新、上下水道シス
テムの再構築を進める必要が
あります。PFAS汚染の問題
は、10年ほど前から注目さ
れるようになりました。今後
も新たな化学物質の問題が顕
在化する可能性があります。

このように、上下水道事業
は、さまざまな課題を抱えて
います。私たちは、問題の
解決に取り組み、健全な水イ
ンフラを次世代に引き継ぐ使
命があります。次世代の人た
ちが、上下水道事業に関心を
持ち、安全・安心な上下水道
事業持続のための担い手にな
ってくださることを願ってい
ます。